

仙台市博物館が、環境省主催の「平成21年度省エネ照明デザインモデル事業」に採択されました。

環境省では、優れた省エネ効果と魅力的な空間創りの両立を図る「省エネ照明デザインモデル事業」を実施し、省エネ照明導入のための工夫やアイデアを普及しています。平成21年度では全国の様々な施設の応募の中から、「仙台市博物館」をはじめとする10件が「省エネデザインモデル」として採択されました。

※上記は環境省のホームページ (<http://shoene-shomei.jp/index.html>) でも紹介されています。

仙台市博物館における「省エネ照明デザインモデル事業」への取組み概要

博物館における照明は「来館者」への配慮のほか、「保存科学」、「展示」、「運営」からの視点など、様々な要素を総合的に計画しなければなりません。

仙台市博物館の展示改装にあたっては、これらの視点を踏まえつつ、博物館のケース照明用特型LED器具の開発を含め、実効性の高い省エネ化に取り組めます。

■保存科学の視点から

- 文化財の劣化要因となる、紫外線(UV)、赤外線(IR)の波長特性の少ないLED照明機具の採用。
- 文化財の劣化低減に配慮し、適正照度に調整可能な設備の設置。

■来館者の視点から

- 資料閲覧に集中でき、期待感を醸成する、メリハリのある演出照明空間の実現。
- あらゆる来館者層に配慮した、安全な展示通路照度の確保。

消費電力・CO2排出量 **44%減**※
ランニングコスト **54%減**※
※従来の展示室との比較概算値

■展示の視点から

- ケース内の高い照度均整度を実現する特型LEDベース照明器具の開発。
- 資料特性、企画意図に合わせ、照明照射可能な自由度の高い特型LED演出照明器具の導入。

■運営の視点から

- ランニングコスト、運営労力の低減を実現するLED照明設備の採用。
- LED照明設備を導入することにより、消費電力・CO2排出量、産業廃棄物排出量はじめてとする環境負荷の低減。



◀ 既設展示室

▼ 改装イメージ

- 文化財の保存環境に適した照度にケース内を調整し、来館者の安全に必要な通路照度を確保しつつ、来館者が資料の閲覧に集中できるよう、メリハリの効いた照明演出効果の高い空間を創出します。
- 独自開発の展示ケース用特型LED照明器具をはじめ、天井照明設備等、ケース以外にも積極的にLED照明を採用し、環境不可の低減に貢献します。



総合展示室展示改修設計：株式会社 丹青社
博物館用LED照明器具開発：アイティーエル株式会社